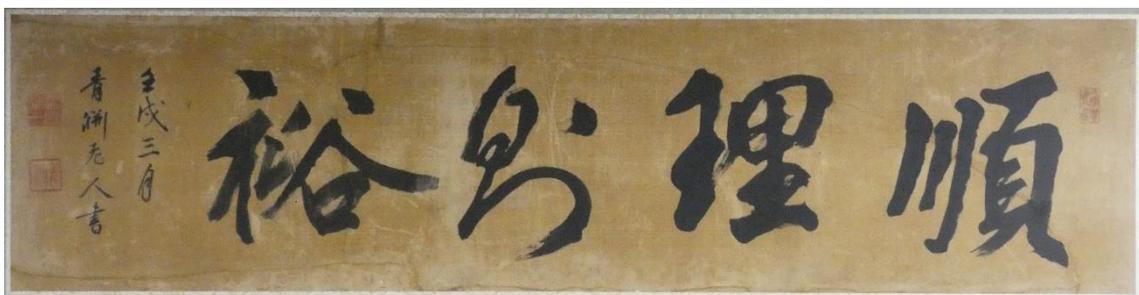




渋沢栄一肖像写真

埼玉県深谷市所蔵



本校に贈られた渋沢栄一の書跡「じゆんりそくゆう順理則裕」

# 東京都立北豊島工科高等学校と渋沢栄一との繋がり

## 1. 渋沢栄一の書跡「じゆんりそくゆう順理則裕」について内容・意味など

読み方は、通例では

「り理にしたが順え、すなわ則ちゆた裕かなり」となるそうです。

元々の原文は、中国そうだい宋代の代表的なじゆがくしゃ儒学者・ていがい程頤の言葉で、

じゆんりそくゆう順理則裕、じゆうよくいき従欲惟危

「り理にしたが順え、すなわ則ちゆた裕かに、こ欲に従えばこ惟れ危うし」

というもので、「道理に従うことが繁栄につながる」ことを説いています。

## 2. 本校に贈られた経緯について

残念ながら、この「書」がどのような経緯で本校に贈られたのかは、判明していません。

渋沢栄一は生前、多くの「書」（内容、テーマも様々ですが、主に「論語」やその他の古典からの引用が多い）を書いており、また関係者・各方面から揮毫の依頼があれば、できるだけ要望に応じていたようです。

例えば、「順理則裕」については、とある企業に同様の栄一「書」があることは知られており、「順理則裕」は比較的、栄一が好んで書いていたのかもしれない。

## 3. その他

大正13年に都立北豊島工科高校の前身にあたる、府立滝野川商工学校から、渋沢栄一に本校の門扉建設に関する収支決算報告が送られています。この資料から渋沢栄一も建設支援をしていたことを窺い知れます。

渋沢栄一は北豊島郡教育会にも関わるなど、地域の教育に対しての支援もしていました。本校に「書」があることの直接的なつながりは不明ですが、何らかの関わりがあることは確かなようです。